

島根県立図書館からの報告

(対象期間：令和 5 年 11 月～令和 6 年 10 月)

島根県立図書館

資料情報課 郷土資料・調査係

須山 麻美

1 全般

令和 6 年 3 月に「島根県立図書館運営方針及び活動計画（第 2 次）」を策定。

（計画期間：令和 6 年度～令和 10 年度）

※島根県立図書館ホームページトップ>島根県立図書館について>運営方針

目標の一つに「知の拠点として調査・研究を支援します」、取組の方向性として下記の 3 点を掲げ、事業に取り組んでいる。

① 調査・研究の支援 ② 郷土の歴史・文化を伝える ③ 専門機関との連携

2 郷土関係の統計データ（令和 5 年度）

・蔵書冊数 126,314 冊（全蔵書の 17.5%）

受入 2,294 冊（R4：2,570 冊）

（購入 552 冊、寄贈 1,739 冊、生産・編入等 3 冊）

払出 17 冊（R4：9 冊）

・貸出冊数 3,714 冊（R4：4,197 冊）

・レファレンス件数 1,468 件（R4：1,795 冊）

・資料の掲載・放映・出展件数 33 件（R4：58 件）

3 古文書等収集、デジタル化の取り組み（令和 5 年度）

（1）古文書等収集

「出雲上官森脇家記録《神門郡鷺社》」（10 冊）を古書店から購入

（2）デジタル化

・県内の名所旧跡の絵葉書約 290 点

・『日本経済新聞』昭和 44 年～58 年分の地域面

4 展示

(1) 郷土資料室ミニ展示

- ・No. 42 藤岡大拙氏著作

(展示期間 令和6年1月5日～令和6年4月3日)

当館の定例文化講座の講師を務められた氏の講座終了にあたり、著作を展示。

- ・No. 43 荒神谷発見！－出雲の弥生文化－

(展示期間 令和6年7月5日～令和6年9月7日)

県立古代出雲歴史博物館の企画展とタイアップし、関連資料を展示。

- ・No. 44 描く人、安彦良和

(展示期間 令和6年10月1日～)

県立石見美術館の企画展とタイアップし、関連資料を展示。

(2) 県行政機関等とのタイアップ展示（主な郷土資料関連分）

期間		タイトル	タイアップ
R5	1月	江戸時代の石見銀山に迫る	世界遺産室
令和6年度	4月	小さな拠点づくり	中山間地域・離島振興課
	4月	企画展「誕生、隠岐国」	古代出雲歴史博物館
	10月	スポーツの秋 スポーツ推進月間 (2030国スポ、島根スサノオマジック)	スポーツ振興課
	10月	国史跡指定100年 出雲の大型古墳	文化財課

5 文化講座等の開催（令和5年度）

種別	講座名	参加者数
定例(月1回)	「出雲国風土記」を読む会 *1	延べ413名
	古文書を読む会 基礎講座	延べ398名
	古文書を読む会 古文書に歴史をみる *2	延べ399名
	万葉集を読む	延べ254名
	戦争・銃後体験記録DB構築講座	延べ123名
	藤岡大拙氏最終記念講演会 *3	70名
タイアップ	講座 大久保長安書状から読み解く石見銀山 (1/28 文化財課世界遺産室)	29名

藤岡大拙氏が講師を務められた*1は45年、*2は55年の節目を迎え、令和5年度で終了。3月は、2講座合同で*3の最終記念講演会を開催。

6 郷土資料モニター制度

県内市町村図書館の郷土資料担当者等に委嘱。県内郷土資料の網羅的収集・保存を目的とし、情報交換・課題共有などを行う。

- ① 郷土出版物・出版情報の収集（随時）
- ② 訪問協議（要望に応じて訪問。R5 から県立図書館を会場とする協議も実施。）
令和5年度…9市町（訪問…7市町、来館…2市）
主な協議内容…デジタル化、貴重資料の取り扱い、資料の整理方法、レファレンス等
- ③ 連絡会議（年1回・2会場）
令和5年度…2月、3月に松江市・浜田市にて開催
研修「松江市史からアーカイブズへー「史料」をめぐる松江市の取り組みー」
「地域資料と人権問題」

7 研修の実施 ※郷土資料関係の講義、講師は県立図書館職員

- （1）公共図書館初任職員研修 第二課程（オンライン）
令和6年10月「郷土資料」 参加者数：31名
- （2）地域図書館職員研修（出前研修）
令和5年11月「レファレンスサービス」（浜田市） 参加者数：31名

8 その他

- ・島根県立図書館公式 X（旧 Twitter）の開始（令和5年9月）

博物館等企画展への出展情報、館内展示情報、講座の受講案内等を投稿。

- ・新聞掲載

山陰中央新報の連載「山陰の戦争遺跡と平和への願い」において、「戦争・銃後体験記録 DB 構築講座」の参加者が心に残る戦争体験記録を紹介（2024.5.31～2024.8.9、全10回）。また、山陰中央新報 2024.8.15「眠る戦争記録 DB 化 当時の実相、後世に伝える 次世代に引き継ぐ 戦後79年（下）」において、講座の取り組みを紹介。